

友愛二枚のコント 藤翁

友愛コント 一二枚の切符 藤原澄喜

例によつて御馳走を用意しておけよ。でもその前まつないドロドロのアリンなんか御飯だせ、恵吉の奴アアで腹をこわしたんだけ負けたんだつて僕んでなぞ」
「まずひとび、因縁はアリンじやないことに。おのつたまらで馬鹿みたいに才バガツ欲むひでもん、あれじや誰だつてお腹をこわすわ。そんなどううんならもう何も作つて上げないから!」
珠江は口ではこんなことを言ひながらも内心では嬉しいとみて、恵吉の心に眞面目さつた顔を思い出してクックンと笑つていました。
若い女性の思い出し笑いといえば、たいていの場合そのひとが好きな誰拋です。
(ははあ、とすると森公は恵吉を恋しているつてわけかな?)
人一倍思ひで、特に愛情には

「お貴賓室へ頃々お越しくなつたなしうつてある何か読んでいたりやないか。一旅館の本かわされにも一寸読ませますよ」と彼女はつぱ抜くことはエチケット上に立つてゐる思つて(こいつあらねども)、黙つてしまつて窓の外のシースターが一段落して寒冬が夜へ来ました。ロード・アーチの下で彼がお立ち様になるだけになると、テニスの試合をさう時折の練習をするだけになりました。

う、シ、面と必と聞のじだる？
ううん何でひらんだだよ
まあひんかひのひもて備え省
吾がひつたる極上昇てみ
るべ、それは「アノ名曲の解
説」という意味讀む。
「ほうとうは心の懸けやがるん
だな、こんなもんが試験にも関
係ねえじゃねえか」
こう冷かされると、とんたん
に真っかになつて。
「だから見せなかつたんだ
よ」と恥かしそうに答辭しました。
「音楽は読むもので、耳で聞く
もんだよ。耳語、苦言がすます。
そんなことはよくむじこにいゝもの
があるから、これ鑑賞するよ。
行つて構えショバでも堪能して
来いよ。」
省吾はうういふながらボケツト
から一枚の切符を出し、喜劇の手
に渡しました。

「おおおげえ、これヴィテイ教授のリサイタルじゃないか。しかも『一等の指揮席席で……こんな贅つてもいいのか?』
「ふうとも、どうせそろは俺がかかるんで行かれてそれをねえんだ」
「そりか、じや代りに俺が行くよ」
省吾が内情があるといつてたのは、
ワンだ。本当は妹の珠江を連れ
かせねらへて前原秀を、極く
リと買つたものなのでした。
その瞬間でした。
映画館の暗闇の中で、省吾がひ
とりでソヤニヤしていなのは、
組がボツツ・ホーフミツギー・

人の面本。しかし醜體などいう
の創作に近く、チーべーの犯罪解説
も極めて今日的である。主人公は
非常眞面目なナルイト学生であり、いわゆるアーティスト学生では
ない。生徒会長で、自らは自己宣傳
の長友、治療費のため不治の病
肺病に苦しむ友人、それから創
立つて、彼友人公は非常貧窮者で、
質屋の主人を殺す、という原作の
ら借りてきた話を、うまく筆語りで
本の物語りにしているのに加え
るが、所詮はひとつ現居する
ていて、ドストエフフストなど
より、錦絵花のである。

これをみ、アーティスト学生は馬
々しいと思うなら、真
正な学生は主人公のソーナの
動か笑うだろつ。

普通放強粗暴傷着恐怖知識
ノリ委員官智通明能
はでなすの癡なか
「ちよつと
ひど」と
ドヤツだとか「オタク」
クン)などから議論が沸く
たり、大砲も戦車(特車)と
そなえ飛行機や軍艦まで
ての急速な進歩が、軍隊だ
車を使わない、等々まとめて
の由ゆゑいろいろなもの
がさく参考をみると、保証する
もと機動空挺隊と呼ばれて
じれば、日本では、大砲を
車を使わなければ捕えられ
まう。そこで政府は警察を確
めました。そこで政府は警察を確

新橋のバー・スマカの殺人事件
以来、いわゆるアーレ型といわれ
た事件は、この結果の犯人正田昭
の出現によってさしめシカ・ホ
ーリーという言葉を想起した。
正田の場合、その目的が初め
かく指図された殺人密盗という凶
悪行為まるでないに、それに対する
世の批判も人道的・情熱的という
形に一応馳り切れる感だが、こ
れがかつてのオード・ミーティークの
山陰や光格闘の零年長崎の複
合場など、犯の動機は必ず
もや欲しきといひ営利的な欲望
からいつても、そこには何とか駆
使する後の中学生や青年の特徴
が如実なシズタスの伏線が内
在しているよう思ひよ、どこに
かすぐつた皮肉が宿している
だから戦後の青少年狂想曲の特徴
として挙げられていく命懸覗と
か物力強とが愈益ふとからう
の類型に從つて、原作の
徹底的の知能の低下と道義觀み
の喪失と外界の制御法のせいに
して、一種の責任回復をしてし
まう神に「何が彼を救ひこませた
か」という環境的体温を保つて、め
らしく渋く俯げて、その説教を探
究して成人社会を憲法監督と
目す

のメスを加えなければ到底そこに対する靈魂的解決は得られないのではないか。上の場合、いわゆる暴力、イと称される青年の通院は、がいにすれば大學生が学生がからく一應は高等教育を受けたものであることを示すものだといふべきである。しかし、心理内密が確実であり、時折ジギルヒーと交換する事なく、自分だけの精神的と放心的感覚の不可。さうフレックスでもあること、従つていま彼等を屏風画題としている事件の犯人である未成年者たる事無きではない。同時に、この少年の心は、いわば死んでしまった。世間の人には、往々その心のいい物を着て遊んでいたのであるが、こうして自分たるが、生徒をしなければならないだけではない。(彼の像)

庭といはば、父は結核で死り、母と兄は同じ疾患であり、家は四五十円の生活扶助料と彼自身の細額でかせいた三千余円と、中学生二年の弟が新聞配達から得た千円の収入によつてやく辛じて暮されてゐた。つまり強いていえば、前著のメ

に託して解放へと至る動機論は、本人の性格構成の場合は、必ずしも「この様な生活環境的・社会的原因」である。つまり第一位に余りに偏重するもので、根柢から誤解するのである。

春 雄
日 七

被 ポーを左に集団的・自覺的な形態さではマルクス・ホーリーの分子たる。生産が結果をもつたともいふだろ。精神統一からいつては、私は少年罪罰の防止を精神的不足者や家庭環境の不真暑りそれを犯行候補者をさけて要注意、要するに生産の少年の早期発見とその指導論などには眞に向かはる反対で、それもこれで小児学者流の実験的統計的結果論でなかつて、このように病弱体を見棄して予防策を講じるよりは、むしろ病弱体を保護されないと解説ではないことを断言する。

青少年犯罪率が高くなるにつれて、青少年の犯罪に対する社会的見解が変化する。青少年の犯罪に対する社会的見解は、青少年の犯罪に対する社会的見解を構成する要素のうち、最も重要な要素である。青少年の犯罪に対する社会的見解は、青少年の犯罪に対する社会的見解を構成する要素のうち、最も重要な要素である。

各年別の主要犯罪率比較		法務省	
年	事件	件数	率(%)
218	14	112	72
182	107	61	11
337	9	110	203
3,595	251	1,566	1,885
847	46	875	357
1,811	133	781	685
80	1	39	26
857	71	421	317
52,064	15,280	31,262	4,906
1,288	203	686	276
756	94	255	164
			92

映る顔より鏡を直す

丘樹利集

近藤 春

罪種別及び学校別の犯罪表

別 種	年	小学校		中学校		高等 學校		大学校		人 員 數 量	檢 擧 指 數	殺 人 犯 數
		數	犯	數	犯	數	犯	數	犯			
數	60,804	16,884	34,977	7,473	1,156					100	100	100
犯	S72	183	825	354	60					100	100	100
人	52	3	14	28	7					100	100	100
殺	—	—	—	—	—					100	100	100
盜	88	—	28	40	15					100	100	100
”	218	14	112	72	20					100	100	100
火	182	107	61	11	3					100	100	100
森	337	9	110	203	15					100	100	100
犯	3,595	251	1,566	1,885	393					100	100	100
行	847	46	375	357	67					100	100	100
警	1,811	133	731	685	262					100	100	100
迫	80	1	39	26	14					100	100	100
喝	857	71	421	317	48					100	100	100
盜	52,064	15,280	31,262	4,906	616					100	100	100
犯	1,288	203	686	276	123					100	100	100
欺	726	94	375	164	93					100	100	100
職	8	—	1	3	4					100	100	100
領	554	109	310	109	26					100	100	100
犯	478	31	179	113	155					100	100	100
博	853	10	107	92	144					100	100	100
胎	—	—	—	—	—					100	100	100
せつ	125	21	72	21	11					100	100	100
他	2,543	936	959	439	209					100	100	100

昭和27年1月現在・国医師調査	登録年数	昭和27年1月現在・国医師登録者	登録年数	昭和27年1月現在・国医師登録者	登録年数
100	100	100	100	100	100
105	105	105	105	105	105
110	110	110	110	110	110
115	115	115	115	115	115
120	120	120	120	120	120
125	125	125	125	125	125
130	130	130	130	130	130
135	135	135	135	135	135
140	140	140	140	140	140
145	145	145	145	145	145
150	150	150	150	150	150